

2018年度

# 事業計画

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

## 【活動方針】

### ◆がん患者支援事業のポイント

正力厚生会のがん患者助成事業は①「がん患者団体への助成」②「医療機関への助成」③「読響ハートフルコンサート」を3本柱として進めています。このうち、2018年度は「医療機関への助成」を1年間凍結し、正力厚生会の主催で「がん医療フォーラム2018」を都内で開催します。

「がん患者団体への助成」では、患者団体の事業計画を最大限尊重しつつ、資金力に乏しい団体や、活動拠点を地方都市に置く患者会にも配慮する方針を継続します。

「医療機関への助成」に関しては、2012年度から6か年計画で実施してきた「地域におけるがん患者の緩和ケアと在宅療養情報プロジェクト」の終了に伴い、2018年度は一旦休止し、正力厚生会自らが企画・主催する「がん医療フォーラム」を開催します。上記プロジェクトも含め、正力厚生会事業のこれまでの取り組みを総括する形でフォーラムを開催し、多様な議論を深めてもらう予定です。

「読響ハートフルコンサート」は、地域バランスなどを踏まえたうえで、2018年度も全国の8医療機関で開催します。

## <患者会活動への支援>

### 患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会、サポートグループなどの中で、資金不足のためイベントやプロジェクト、研究などが実施できない団体を公募し、活動資金を助成します。2007年度から始まり、2018年度は12回目です。2018年度助成に応募した団体は49団体でした。2月1日の専門委員会で選考し、33団体を助成対象に内定しました。事業内容に応じて1団体あたり上限50万円を助成します。

## <医療機関への助成>

### 2018年度はいったん休止

2012年度から2017年度まで、6年間支援してきた「地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト」が、2018年3月をもって終了しました。

これは、渡邊清高・帝京大学准教授をプロジェクトリーダーとした国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学の医師や研究者で構成された共同プロジェクトでした。第1期（2012～14年度）では、小冊子「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド～がん患者さんが安心してわが家で過ごすために～」を制作。第2期（2015～17年度）は、この冊子を活用しながら全国各地で一般市民向けの「フォーラム」や専門職向けの「研修会」の開催を重ね、在宅療養の普及、啓発事業に取り組んできました。

フォーラムは動画で記録し、正力厚生会のホームページと同プロジェクトのウェブサイトである「がんの在宅療法」で全編視聴できるようにして、いつでもどなたにも情報共有ができる仕組みとしました。

6年間のプロジェクトで、①多職種連携の重要性の再確認②地域住民の理解と協力の重要性③地域の次世代を担う若者の人材育成④これらの情報の共有と発信の重要性——などが、成果として確認できました。正力厚生会の助成は一旦終了しますが、プロジェクトそのものは継続しており、渡邊准教授を中心に次のステップへの準備を進めていっしょういします。

正力厚生会としては、2018年度は同プロジェクトへの今後の関わり方なども含め、これまでの医療機関助成の成果を総括し、助成の方向性を考える年度としたい考えです。

## <QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成>

### 「がん医療フォーラム2018」（7年ぶりに実施）

「がん医療フォーラム2018」を、正力厚生会の主催で12月2日（日）に一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）で開催します。当会の主催で開催・実施するフォーラムは2011年度以来7年ぶりとなります。

テーマは「がんを知り、がんとともに生きる社会へ」（仮題）。がん治療、

ケアは、診断と治療の進歩により近年大きく変化しています。治療効果を高める技術や薬剤の開発に加え、苦痛や不安を取り除くケア、これからの過ごし方を考えるときに役立つ情報が整備され、普及することで、「がんになっても尊厳をもって暮らすことのできる社会」に向けた取り組みが広がっています。フォーラムでは、信頼できる情報の共有と連携、地域づくりなどを、正力厚生会がこれまで取り組んできた事業を総括しつつ、様々な角度から話し合ってもらおう方針です。

登壇者には辻哲夫理事長、上記プロジェクトリーダーの渡邊清高・帝京大学准教授、地域医療に関わる医師、患者団体の代表者などを予定しています。

### 読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すには音楽が有効と考え、2007年度から公益財団法人読売日本交響楽団のメンバーを病院などに派遣して、玄関ロビーなどで弦楽四重奏を披露しています。

2018年度の演奏会場は一般公募の結果、地域バランスなども考慮して、2月1日の専門委員会で下記8会場を内定しました。また、読売日本交響楽団からの提案で、②と③の会場では初めてソプラノ歌手にも参加してもらい、歌も楽しめる演奏会を試みます。

開催会場は、2018年度終了時点で計80か所になる見込みです。なお、開催日程は諸般の事情により変更となる場合があります。

- ① 高知市病院企業団立高知医療センター（2018年5月26日）高知市
- ② おおたかの森病院（同 5月31日）千葉県柏市
- ③ とちぎメディカルセンター（同 6月20日）栃木市
- ④ JA北海道厚生連 札幌厚生病院（同 7月23日）札幌市
- ⑤ 岡山大学病院（同 10月26日）岡山市
- ⑥ 宮崎県立宮崎病院（同 11月10日）宮崎市
- ⑦ 一宮市立市民病院（同 12月 4日）愛知県一宮市
- ⑧ 地域医療機能推進機構中京病院（2019年2月 4日）名古屋市

以上